

研究者の事業化支援 3人に計1000万円寄付

肥後銀行

肥後銀行は10日、熊本県内の大学で進む研究開発の事業化を支援するため、新たな抗がん剤や機能性表示食品、尿を使った健診サービスの開発に取り組む研究者3人に計1千万円を寄付した。

寄付を受けたのは、熊本
大大学院の喜多加納子助教

と永芳友特任助教、崇城大の西園祥子教授。大学や高専などの研究者を支援する「肥銀GAP資金制度」による寄付で3度目。応募者の中から研究の精度や事業化の意志を重視して決めた。

熊本市中央区の肥後銀本店であつた贈呈式で、笠原慶久頭取は「大学発の事業は社会を大きく変える可能性がある。研究成果を拾い上げ、花開くよう応援したい」と話した。3人は2025年度までに会社を設立し、研究分野の事業化を目指す。

(田代智也)